

2012年3月期 第2四半期 決算発表
主な質疑応答

(タイ洪水の影響について)

Q: 操業を停止している現地生産会社 AAT(タイランド)の復旧の見通しと、その影響について教えて欲しい。

A: AATはバンコクから南東のラヨーン県に位置しており、浸水などの直接被害はありませんでした。しかし、部品の調達が困難な状況が続いており、現在、乗用車・トラックともに生産を停止しています(11月2日時点)。現時点、お取引先様の被害状況などを調査中であり、生産再開の目処やトータルでの影響の程度については、部品納入の状況を見て判断していく必要があると考えています。互換性のある部品の供給なども検討して、早期復旧に向けて取り組んでいるところです。

(円高への対応について)

Q: 円高が長期化しているが、どのような対応をとっているのですか？

A: 円高の長期化は今後もしばらく続くと考えており、これに対しては、今まで以上のコスト構造の改革で克服しようと考えています。コスト構造の改革は、短期的には車両の台数・ミックスの改善と変動費・固定費の改善で行い、すでに成果をあげつつあります。また、中長期的には約5年前から進めている「モノ造り革新」をさらにスピードアップして、その成果を追求します。「モノ造り革新」の狙いは、性能や品質の向上はもちろんですが、最大の狙いはコストの革新的な改善であり、開発効率化3割、車両コスト20%改善などの目標達成にほぼ目処が立っています。「モノ造り革新」の取り組みに加えて、VE/VAなどの従来からの取り組みも加速することで円高に対応していきます。

(SKYACTIV 搭載モデルについて)

Q: SKYACTIV 搭載の新世代デミオ、新型アクセラの販売状況を教えてほしい。

A: デミオについては、7~9月の3ヶ月の月平均販売台数が約8,000台、うちSKYACTIV搭載比率が64%といずれも社内目標を上回り好調です。また、9月に発売したアクセラは目標の2倍以上となる5,000台以上の受注をいただき、SKYACTIV搭載比率も約60%と計画を大きく上回っています。10月より全国規模の試乗キャンペーン「JAPAN DRIVE Fest」を展開し、より多くのお客様にSKYACTIV技術の素晴らしさをご体験いただく取り組みも実施中です。

(メキシコ新工場について)

Q: メキシコの工場から北米への輸出も検討している、とのことだが詳しく教えて欲しい。

A: 現在のような円高の状況では、Mazda2(デミオ)、Mazda3などの小型車を日本だけから輸出することは難しい状況です。今後、詳細な検討が必要ですが、メキシコ工場の稼働開始時点から北米にも出荷できる方向で見直しています。